

大学生の自閉スペクトラム症特性と情緒的症狀との関連メカニズム
—親の自閉スペクトラム症特性および情緒的サポートに着目した検討—

坂田 侑奈

本論文は、一般人口集団の大学生を対象とし、大学生の自閉スペクトラム症特性と情緒的症狀との関連メカニズムを明らかにするための実証的な検討を行った。はじめに研究1では、自閉スペクトラム症特性と情緒的症狀との関連メカニズムに着目する必要性を確認するために、自閉スペクトラム症特性と情緒的症狀との因果的関連の検討を行った。首都圏の大学生88名を対象とし、自閉スペクトラム症特性と情緒的症狀との因果関係に関して交差遅延効果モデルにおける検討を行った結果、Time1の自閉スペクトラム症特性の高さからTime2の情緒的症狀への有意なパスが示され、自閉スペクトラム症特性から後の情緒的症狀への因果的関連が実証された。

続いて、研究2では、大規模サンプル(4,120名)を用いて、自閉スペクトラム症特性の高い大学生の実態について明らかにするとともに、自閉スペクトラム症特性の主症状である社会的コミュニケーションの困難さに着目し、社会的コミュニケーションの困難さに由来する情緒的症狀の軽減に、知覚された親および友人からの情緒的サポートが自閉スペクトラム症特性と情緒的症狀との媒介要因となりえるのか検討を行った。その結果、自閉スペクトラム症特性のスクリーニング尺度のカットオフ値以上を示す大学生は、約12.4%の割合であることが示され、その割合の性差は、男子大学生において有意に高かった。さらに、専攻分野別にみたカットオフ値以上の大学生の割合は、理工農学系を専攻する大学生において有意に割合が高いことが示された。続いて、カットオフ値以上/未満群の比較検討を行った結果、カットオフ値以上の大学生は、カットオフ値未満の大学生と比較して、有意に情緒的症狀得点が高く、また親および友人からの情緒的サポートが有意に低いことが示された。さらに、対象大学生の情緒的症狀を予測する要因を重回帰分析によって検討した結果、大学生の情緒的症狀を、自閉スペクトラム症特性の高さ、親および友人からの情緒的サポートの少なさが予測する結果が示された。最後に、親および友人からの情緒的サポートの媒介効果について検討を行った結果、自閉スペクトラム症特性と情緒的症狀との関連に親および友人からの情緒的サポートが媒介要因となることが示された。

研究2における限界点として、第一に、親からの情緒的サポートに関して、具体的な情緒的側面を測定していない点、第二に、自閉スペクトラム症特性の遺伝的な関連の強さを考慮する必要がある点が挙げられ、こうした点を踏まえ、つづく研究3-1において、情緒的サポートについては、「親からの励まし」と「親からの承認」に関する検討を行い、大学生自身の自閉スペクトラム症特性のみならず「両親の自閉スペクトラム症特性」の効果に関する検討を行うこととした。研究3-1においては、双生児の大学生260名とその両親の130組家庭を対象とし、“大学生ならびに両親の自閉スペクトラム症特性の高さは、親からの励ましと承認を低め、親からの励ましと承認の少なさは、大学生の情緒的症狀へと関連する”という仮説を立て、マルチレベルモデル分析によって検討を行うこととした。その結果、個人レベルにおいて、大学生それぞれの自閉スペクトラム症特性は、父親からの承認の少なさの知覚を媒介し、情緒的症狀に関連することが示された。2者関係レベルにおいては、ツインペアでの自閉スペクトラム症の高さは、ツインペアの父親からの承認の少なさの知覚を媒介し、情緒的症狀へと関連することが示された。加えて、ツインペアの父親の自閉スペクトラム症特性の高さは、ツインペアの父親からの承認の少なさの知覚を媒介し、情緒的症狀へと関連する結果が示された。母親においては、ツインペアの母親の自閉スペクトラム症特性の高さが、ツインペアの認知する母親からの承認の少なさへと関連を示した。研

究 3-1 における限界点として、親子間の自閉スペクトラム症特性が関連を示さなかった点や母親の自閉スペクトラム症特性が情緒的症状へと関連を示さなかった点が挙げられ、その点を踏まえ、研究 3-2 (対象数 348 名) では、親との不和というネガティブな関係性を加え、さらなる検討を行った。その結果、両親の自閉スペクトラム症特性は、大学生の自閉スペクトラム症特性に関連し、さらに両親の自閉スペクトラム症特性は、親からの情緒的サポートの少なさの知覚ならびに親との不和の知覚を媒介し、大学生の情緒的症状へと関連する結果が示された。

本論文の結果から、大学生の自閉スペクトラム症特性の高さは情緒的症状と関連し、その関連を親からの情緒的サポートや承認の少なさが媒介している可能性が示唆された。加えて、両親の自閉スペクトラム症特性の高さが、大学生の子どもに対する情緒的サポートの少なさや不和の多さに関連し、情緒的サポートの少なさや不和の多さが情緒的症状へとつながる可能性も示唆された結果は、自閉スペクトラム症特性の高い大学生の親からのサポートを増加させ、良好な関係性を保ち、情緒的症状を軽減、予防するために、親子の自閉スペクトラム症特性を考慮した上での、家庭全体に対する支援や介入を行うことの重要性が確認されたといえるだろう。